２章　本別町の特性と都市づくりの課題

１．本別町の特性

（１）本別町の位置

本別町は、北海道・十勝の東北部に位置し、帯広、釧路、北見等の主要都市や、阿寒等の観光地に、国道 242 号、274 号等で※アクセスでき、平成 15 年に開通した北海道横断自動車道の本別ジャンクション、※本別インターチェンジにより、これらの区域のみならず道央圏等へ、より快適なアクセスが構築され、今後の釧路・北見方面への北海道横断自動車道の延伸により、主要都市や観光地を結ぶ交通の拠点として、期待されています。

（２）人口、世帯数

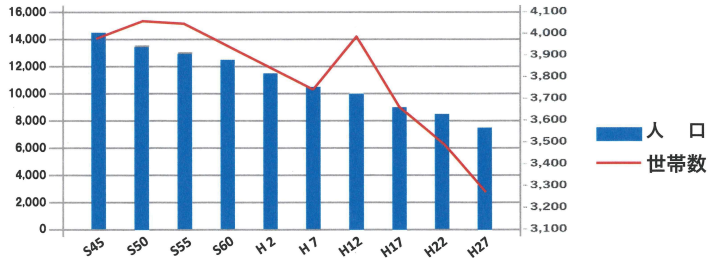
平成 27 年の人口は 7,358 人で、昭和 45 年の 14,804 人からの推移をみると、減少傾向にあります。（国勢調査結果）

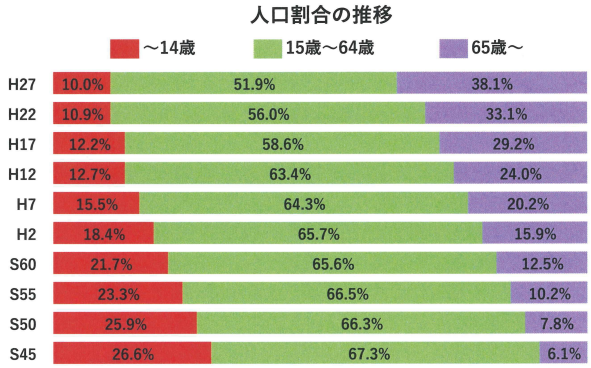
一方、世帯数については、昭和 45 年から平成 12 年までは、4,000 世帯前後を推移しておりましたが、平成 27 年の世帯数は 3,260 世帯と減少傾向にあります。（国勢調査）

年齢別人口については、65 歳以上の高齢人口割合が昭和 50 年以降急激に増加し、昭和 50 年で 7.8%に対して、平成 27 年では 38.1%に増加しています。（国勢調査）

一方生産年齢人口や幼少人口は減少しており、昭和 50 年でそれぞれ 66.3%、25.9%に対し、平成 27 年では 51.9%、10.0%となっています。（国勢調査）

人口推移





資料：国勢調査

アクセス　　：接近、近づくこと、又はその方法のこと
インターチェンジ：高速道路の出入口

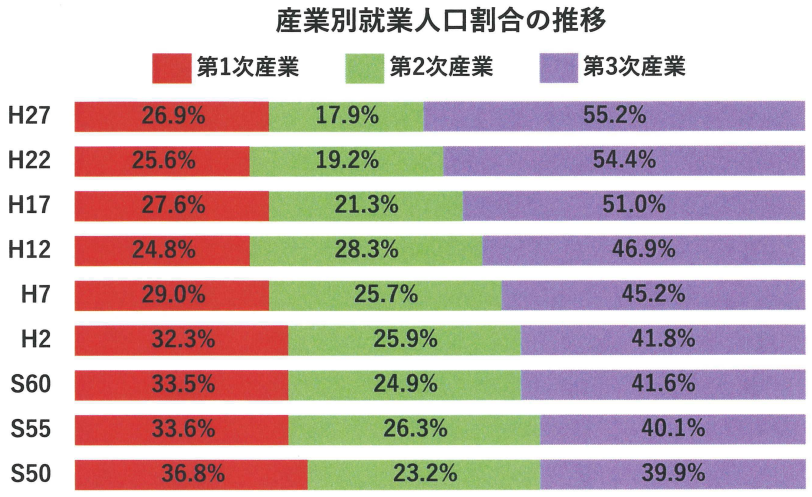
（３）産業

産業別就業人口をみると、第１次産業人口は、昭和 50 年で 36.8%に対し、平成 27 年度では 26.9%と減少傾向にあります。（国勢調査結果）

第２次産業人口は、昭和 50 年で 23.2%に対し、平成 27 年度では 17.9%とほぼ横ばい傾向にあります。（国勢調査結果）

第３次産業人口は、昭和 50 年で 39.9%に対し、平成 27 年度では 55.2%と増加傾向にあります。（国勢調査結果）

第１次産業と第２次産業割合を北海道平均と比較すると、平成 27 年の国勢調査では第１次産業就業者割合、第２次産業就業者割合がそれぞれ 26.9%、17.9%と北海道平均の 7.4%、17.9%を同等以上となっており、農業と製造業が中心産業といえます。



資料：国勢調査

（４）本別町の資源

本別町は、昔から町民に愛されている※義経の里本別公園（旧称夏川公園）、野鳥や水鳥が訪れる美里別川、変化に富んだ※河岸段丘の地形など、豊かな自然に恵まれております。

また、開拓記念碑、チャシ公園といった史跡や農業大学校、肥沃な大地、日本一の豆に代表される農産物等の豊かな農業資源があります。

また、市街地南部の高台には、これら自然景観、農村景観、自然や畑地に囲まれた市街地を一望に見渡せる浦幌坂等があります。

義経の里本別公園：本別町東町、本別川沿いに位置する本別公園、静山公園、義経公園の３箇所を総称し、「義経の里本別公園」としている
河岸段丘　　：砂礫層または岩盤から成る河谷の岸の階段状地形

（５）本別町の市街地の特徴

本別町の市街地は、山々や畑地に囲まれた中で、国道 242 号を中心に形成されており、工業等の発展により、市街地は勇足方面に向けて拡大しています。また市街地内には、3 つの河川が流れており、利別川河川敷では、野球場、運動広場、パークゴルフ場等が整備されています。

利別川の対岸は、学校等が集積した文教地域、住宅地域等となっており、福祉拠点として“太陽の丘”が整備されています。

利別川を挟んだ市街地は、3 本の道路で結ばれています。

その中で、道の駅「ステラ★ほんべつ」を起点とする道道勇足本別停車場線（銀河通）では、これまで歩道の拡幅、※バリアフリー化、植樹等で歩道の整備が行われています。

（６）町民活動

本別町の町民は、自然や農村に囲まれた中、その特性を活かして様々な活動を行っています。

毎年９月の第１週に開催される、本町最大のイベントである「きらめきタウンフェスティバル」や春の「つつじ祭り」では、特産品の豆などを活かしたメニューづくり等、地域資源を有効活用しながら、町民が一体となってイベントを盛り上げています。

また、勇足地区の国道沿道や本別中学校前の道道沿道では、町民活動によって歩道に花を植えられており、歩行者やドライバーに愉しさや快適さを提供しています。

このように、本別町では、一緒に生活していくことができる人間関係があり、まちづくりへの意識が強く、“人”がまちの資源となっています。

銀河通　：道道勇足本別停車場線のうち本別駅前から本別大橋までの区間の通称
バリアフリー化　：障害者や高齢者の生活や活動に不便な障害(ﾊﾞﾘｱ)を取り除くこと。段差に代わるスロープを付けること
きらめきタウンフェスティﾊﾞﾙ　：平成９年から始まり、本別で一番大規模なお祭りです。
６千発規模の花火大会、有名歌手を招いた歌謡ショー、さまざまなステージイベントを２日間にわたって開催します。

２．都市づくりの課題

（１）誰もが安心して過ごせる市街地の必要性

①高齢者・障害者へ対応した公共施設や都市施設の整備

高齢人口の増加､幼少人口の減少により本格的な高齢社会を迎えている本別町においては、高齢者、障害者、子供に配慮した都市施設や公共施設の整備が求められています。

これまでに、歩行者量の多い歩道のバリアフリー化、通学路となる道路の両歩道化、歩行者専用信号の設置、自動車で移動できない人の交通手段となるバス路線の充実、安心して過ごし交流できる公園づくり､公共施設内のバリアフリー化やエレベーターの設置等をしてきているところです。

また、現在整備され、福祉施設が集積する太陽の丘については、福祉拠点として活用されています。

②危険な交差点、道路の解消

身近な日常生活において車の利用頻度が高い本町においては、信号を設置していない等、自動車の右左折において危険な交差点､勾配が急で幅員が狭く自動車がすれ違うことが困難な箇所があり、これらを解消していくことが求められます。

③良好な住宅地の整備

人口が減少している中、今後の定住促進に向けて、公営住宅の魅力向上や未利用地の有効活用などによる住環境の向上や居住水準の向上等の住宅施策を検討していく必要があります。

公営住宅については、魅力ある住宅地形成のため計画的な建替、建設、用途廃止等が求められます。特に老朽化している栄町団地、向陽町団地については、高齢者対応、若年単身者対応、周囲の利便施設等に配慮した建替が求められます。

また、一般住宅地については、未利用地を公共施設用地等として有効に活用することを図るほか、ゆとりのある住宅地供給を、未利用地等を活用して図っていく必要があります。

Ｉターン　　：都市の出身者が地方の企業に就職、転職すること
Ｕターン　　：地元へ帰って就職すること

（２）文化・学習活動ができる空間づくりへの対応

①文化拠点の形成

町内には、資料館、公民館、図書館等の文化施設があります。

今後は、幅広い文化・学習活動を推進する上で、多くの町内外の人が利用しやすい施設整備を検討していく必要があります。

②史跡の維持管理

本町には、史跡として、開拓記念碑や昭和初期に建てられた建物、アイヌ文化を伝えるチャシ公園等があります。

このような史跡の保存と維持管理を図るとともに、これらの文化や歴史を継承していく意識高揚等の形成が求められます。

③河川運動公園のあり方

現在、利別川の河川運動公園には、パークゴルフ場、野球場、グランド等の体育施設が集積しています。

しかし、大雨で洪水が起きるたびに、修繕費用がかかっており、今後は、河川運動公園の利用方法、維持方法について検討していくことが求められます。

（３）自然の保全や自然との調和の必要性

①自然の保全

本町は、美里別川、義経の里本別公園等の美しい自然に囲まれています。しかし、減少している昆虫種がみられるなど生態系が変化しつつあるといえます。

美里別川、義経の里本別公園等の自然資源の保全を図るとともに、自然学習・体験学習等の機会を通じ、自然保全への意識を高めることが求められます。

②周囲の自然や農地と市街地との調和

河岸段丘等の自然に囲まれている本町市街地においては、周囲の景観、地形等と市街地が調和されていることが重要であり、これらを重視した土地利用、道路整備、公園整備等を図っていく必要があります。特に、周囲の景観に配慮した建物の高さ制限や、植物の特性に配慮した街路樹の整備等を検討する必要があります。

河川運動公園　：本別川河川敷にあるパークゴルフ場、野球場等の通称（正式名は、本別河川緑地）

③景観阻害要素への対応

本町は、山、河川、河岸段丘などの豊かな自然景観を有し、国道 274 号の高台に位置する共栄駐車場からはこれらの自然や、市街地夜景が見られるなど、景観に恵まれています。

しかし一方では、老朽化した空家やごみの放置などが市街地内に見られ、町の景観を損ねており、ひとりひとりのマナーの向上を図ると共にルールづくりが求められます。

（４）産業を大切にした都市への対応

①広域的な視点での本別町のまちづくり

本別町は、帯広、北見、釧路等の主要都市、阿寒等の主要観光地の中間に位置しており、平成 15 年に北海道横断自動車道のインターチェンジやジャンクションが供用されたことにより、道東圏での本町の役割が今まで以上に重要となってきております。

市街地への主な交通アクセスは、インターチエンジから降りて、国道 242 号から市街地へと誘導され、市街地の入口に位置する国道 242 号沿道は、まちの最初のイメージを伝える玄関口として、近年重要な役割を果たしてきています。

今後、本別町の農林業や豊かな自然等を生かした、次世代に繋ぐ活力あふれた土地利用や沿道景観の形成を検討する必要があります。

②中心市街地の活性化

銀河通りでは、道路整備が完了し、景観の統一、歩道の拡幅、バリアフリー化、※電線の無電柱化等により近代的な商店街が形成されています。

また、平成 21 年 4 月には、「旧ふるさと銀河線　本別駅」が、道の駅「ステラ★ほんべつ」としてリニューアルオープンして以降、観光及び商店街の基点として役割を担ってきております。

今後、銀河通りと連続する空間として、買物やまちの※回廊を楽しむことができるような歩行環境の形成を図るとともに、消費者ニーズに対応した魅力ある商店街づくりを進めることが求められます。

③工場地の整備

本別西通より南西側は国道 242 号沿道を中心として、工業系の土地利用が図られており、多くの工場等が立地しています。

南地区工業団地を含めた北海道横断自動車道のインターチェンジ周辺までを工業地として充実していくためには、計画的な工業団地の形成を図るとともに、周辺への環境や景観にも十分、配慮していく必要があります。

電線の無電柱化：電線類地中化を実施するなどにより、道路上（両側）に電柱や電線がない道路
回廊　　：あちこちをめぐり、遊び歩くこと

④観光資源の活用

本町の主な観光資源としては、義経の里本別公園があります。

義経の里本別公園は、自然の保全を図りながらも、駐車場等の利便性向上や、遊具・園路・宿泊施設等のリニューアルが近年図られ、魅力ある公園創りが進められています。

今後、観光地としての性格が強くなるに従い、高速自動車道等とのアクセスの向上など、さらなる対策を図る必要があります。

（５）都市づくりへの町民活動との融和の必要性

①町民活動によるまちづくり

本町では、勇足地区や本別中学校の前で、花が歩道に植えられている等、町民活動が盛んであり、まちの重要な景観要素となっています。今後は、このような活動を充実させ、より多くの町民が参加するまちづくりが求められます。

②イベントの充実

本別町には、きらめきタウンフェスティバル等の自然を活かした特色あるイベントが実施されており、今後はこれらのイベント等をさらに充実させることによってにぎわいのあるまちづくりが求められます。